

課題解決へ独自技術磨く 循環型経済の 取り組みも

ファッションビジネス企業では、専門性の高い技術や独自研究に基づいた製品やサービスを提供し、SDGs（持続可能な開発目標）やパリ協定、海洋プラスチック問題、ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の広がりといったグローバルな潮流に対応しようとする動きが加速している。また、リサイクルやアップサイクルなどサーキュラーエコノミー（循環型経済）実現に向けた取り組みも目立つ。

CO₂排出量の削減技術を提案

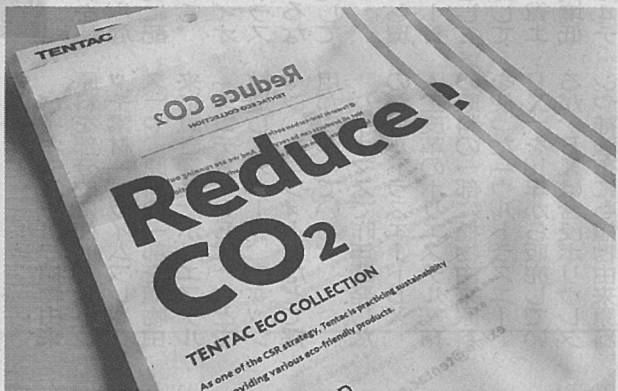
テンタック

タグやラベル、パッケージ主力のテンタック（東京）は、焼却時にCO₂（二酸化炭素）の排出を大幅に削減する技術「グリーンナノCO₂オフ」で、企業の環境保全に関わる取り組みに貢献する考えだ。

グリーンナノCO₂オフは、燃焼時に発生するCO₂を灰にするための炭化促進剤とCO₂化学吸着剤が入ったナノサイズのカプセルを使った技術。これにより、空气中

に排出されるCO₂の量を削減できる。東京理科大学発のベンチャー、アクティブ（千葉県野田市）が開発した技術だ。アクティブが実施した燃焼試験の測定データによると、ポリエチレンを使った一般的なフィルムと、グリーンナノCO₂オフのフィルムを比較した場合、CO₂の平均削減率は67・5%。

テンタックは、4月にアクティブと契約し、グリーンナノCO₂オフを使ったプラスチック原料をペレットの状態販売し始めた。既存の材料にペレットを加えるだけで、生産設備を変える必要はない。ペレットの混入率は3%で効果を発揮する。営業活動を強化するため、専門の事業部を立ち上げる予定だ。テンタック製のパッケージやアパレル資材に活用するほか、「プラスチック製品なら幅広く対象にする」考えだ。



「グリーンナノ」を使ったパッケージ。高透明度、高強度が特徴

る。

脱プラスチック

の世界的な潮流が強まっている中、様々なプラスチック製品の生産工程に技術を活用し、環境配慮型の製品に変える。